

終戦記念日  
によせて!

## 今こそ 戦争の恐ろしさを伝えなければ!

皆野町に住む70歳代の男性に、戦争当時のこと、平和への思いを伺いました。

兄一人が20代で戦死した。私が小学生だった終戦前は、皆野町にも米軍の戦闘機がたびたび飛んできた。中島飛行機工場 現在の富士重工の前身)を目標して爆撃のために秩父を通していったらしい。

ある日、熊谷方面に鉄道で出かけたときに空襲にあい列車から降り、となりの貨車の下にもぐったら、駅員からそこの方があぶないと言われ怖かった。低空飛行でせまってくる米軍機の兵士の顔がわかる程で本当に怖い思いをした。

「もしも、日本が外国を攻撃するよつな事があれば、自分の国も攻撃されることも起こるのではないか。原発でも攻撃されたら大変なことになりますよね、集団的自衛権の閣議決定や武器輸

出が可能になる事など、今こそ戦争の恐ろしさ悲惨さ、家族を失う悲しさなど、まず、家族や孫にわかつて欲しいと思うが、なかなか難しいと感じている。」



### 平和に暮らせる

### 世の中を!

夫は、昭和14年4月生まれ、父親はその年の8月に出征したので、4ヶ月間しか一緒に暮らしていません。

年老いた祖父母と若い母親は、息子が夫が帰ってくるという噂を信じて待つていたといいます。

昭和19年の春、近くの荒川で水遊びに興じていた五歳の孫に、昼ごろ祖父が「父ちゃんが死んだと!早く家に帰ってこい」と迎えに来ました。その後届けられた箱には、木片

が一つ入っていただけだったと言います。

この話はその場面が想像できる程、何回も聞きました。義母は男手のない農家の担い手として、この家でもそうだったようにまさに牛馬のごとく働きつめだったようです。

義母のタンスの引き出しには、夫からの戦地からの軍事郵便のハガキ、国内での日誌帳、役場からの死亡通知書、復員庁からの遺族記章(紙製)勲章などが大事に保管されていました。義母は、どんな勲章よりも、夫が生きて帰ってくることをどんなに待ち望んでいた事でしょう。あとを継いだ私たちにこのような遺品を残すことで、戦争のない平和に暮らせる世の中にしたいと伝えたかったのだと思います。

太平洋戦争では、皆野町で多くの戦死者ができました。今、又海外で戦争する国づくりが進められようとしています。軍事ではなく、憲法9条にもとづく平和外交が求められています。!

### 皆野町における太平洋戦争の戦死者数

昭和10年~15年	35名
昭和16年	9名
17年	18名
18年	25名
19年	134名
20年	182名
21年~27年	22名
不明	1名

西南の役から大正8年までは17名の戦死者がいました。又、21年救護班で女性1名が戦死しています。(昭和58年作成(盡忠録II)ジンチュウロクより)

### 集団的自衛権行使で

イラク戦争での兵士の犠牲者 (大量破壊兵器を隠していると米国が先制攻撃) (2003年3月~)

国名	犠牲者数
アメリカ	2,335(負傷者22,223人)
イギリス	453
カナダ	158
フランス	86
ドイツ	54
イタリア	48
デンマーク	43
その他	293
合計	29カ国3470人

\*イラク政府発表(2007年1月) 2006年一年間の死者数 1万16,273人  
内訳 市民 14,298人 警察 1,348人 兵士 627人  
\*2003年の開戦から2006年末迄で15万人が死亡

